

2019年度 日本老年看護学会生涯学習支援研修〔基礎編〕【小倉会場】報告

開催日時 2019年9月15日(日) 13時00分～16時30分

会場 小倉記念病院 講堂

参加者数 42名 (会員 20名、非会員 22名)

運営担当 飯山(熊本保健科学大学)、小野(大分大学)

テーマ 急性期病院における高齢者の尊厳を守る看護実践
：身体拘束をあたりまえにしない看護



【講義(60分)】

1. 「急性期病院において認知症高齢者を擁護する」日本老年看護学会の立場表明2016の紹介・解説
日本老年看護学会 理事/大分大学 三重野英子氏
2. 「医療や介護を受ける高齢者の尊厳を守るためのガイドライン」「身体拘束予防ガイドライン」
(日本看護倫理学会)の紹介・解説
日本老年看護学会生涯学習委員/日本看護倫理学会臨床倫理ガイドライン検討委員
大分大学 小野光美氏
3. 実践報告「身体拘束をしないための取り組み、職場の倫理風土を高めるためにできる工夫」
久留米大学病院 老人看護専門看護師 秋吉知子氏

【グループワーク(80分)】+【発表(30分)】

8グループにわかれ、以下の視点についてグループディスカッションを行った。

- 所属部署の現状(取り組みや課題)の紹介、共有
- 「身体拘束をしない」が難しい理由/「身体拘束をしない」がうまくいった理由
- 身体拘束をしないための方策(明日からできること!)

最後に、ディスカッションの内容について各グループ3分間で紹介をしてもらった。

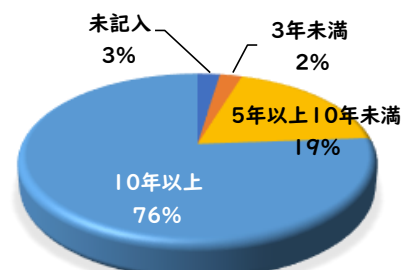
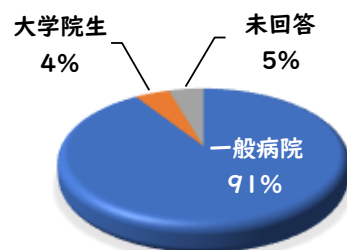
【アンケート結果・感想】(回収数;42、回収率100%)

1. 参加者の概要および研修設定に対する意見

1) 入会状況: 会員 20名、非会員 22名(*非会員のうち、研修会当日に2名が入会手続き)

2) 現在の勤務先:

3) 経験年数:



4) 研修を知ったきっかけ(複数回答):

老年看護学会ホームページ(19)、同僚の紹介(6)、学会からのメール(5)、上司の紹介(5)、ポスター(1)、学会関係者の紹介・FAX(1)、その他(2)(ネットで調べて)

5) 開催時期: 良い(39)、悪い(3; 連休の中日、連休中でやすみがとりづらい、年度計画立案・実施中のため年度始めがよい)

6) 開催場所: 良い(39)、悪い(3; 福岡中心部がよい交通の便利さ、福岡市内を希望)

7) 開催時間：良い (37)、悪い (4；午前中を希望、もう少ししっかりと時間をとって欲しい)、無回答 (1)

8) 受講動機 (複数回答可)：

テーマに関心があった (42)、会場がアクセスしやすかった (12)、講師に関心があった (6)、上司の勧め (5)、参加費が安かった (5)、知人の勧め (4)

9) 会費について：ちょうど良い (41)、もっと高くてもよい (1)

2. 研修会の内容について

1) 本日のテーマについて：非常に興味がある (35)、まあ興味がある (7)

意見：身体拘束を当たり前に行っている風土が当院にあるため、考えるきっかけで興味がありました、看護部全体で取り組みを始めたばかりだったので、タイムリーに研修参加できた

2) 期待通りであったか：期待通り (26)、まあ期待通り (15)、あまり期待通りでない (1)

意見：グループワークで他院の状況や他者の考えが聞けてよかった、日々悩んでいることを話せた、対応に関して他の施設の現状は理解できたが実践に生かせるほどではなかった等

3) 老年看護における看護師の生涯学習支援について：非常に必要 (38)、まあ必要 (4)

意見：当院でも広く広めたいと思っているため

4) 今後このような研修に参加したいか：とても参加したい (31)、まあ参加したい (11)

意見：これからは少子高齢化時代なので老年は考えていかななくてはいけないと思う、興味のある内容があれば参加したい

5) 今後取り上げてほしいテーマについて (自由記載)：

意思決定支援 (2)、ACP/エンドオブライフケア (2)、倫理的な問題について (2)、フレイル、地域連携/退院支援、ユマニチュード、身体拘束 (抑制ゼロの現場からの発信)、最新情報の提供

6) 身体拘束をしないうちに明日からできること (自由記載)：

- ・成功体験をリンクナースとともに事例検討し仲間づくりをする
- ・管理者を巻き込んでケア向上を目指す。アセスメントを促す
- ・一人ひとりアセスメントをし、その人の今後の目標設定を行い、その人にあったケアを実践していく
- ・日々の患者の状態や言動を記録に残す、感受性を高めるため自分たちの思いをカンファレンスで出す
- ・しないうちには何ができるかを考えることから始めたい
- ・患者さんを理解する、患者さんをよく観ることからはじめたい 等

7) その他 (自由記載)：

- ・想像していた研修よりも、とてもよい意義のある時間でした。
- ・時間が限られていることは理解できますが、講義の話すスピードが早いと感じました。グループワークで他院の状況や取り組みを聞くことはとても参考になりました。
- ・講義の質問の時間があるとよかったです。
- ・久しぶりに身体拘束の話をして気分がらくになりました。
- ・現状の考えや思いをなかなか話すことがなかったのでグループワークがあってよかったです。
- ・ガイドラインや立場表明、非常に重要で素晴らしい内容だと思います。しかし、看護職だけで共有・理解しているだけでは現場は変わりません。ケアを変えたとしても医師との共有や理解が得られないことで現場は苦慮しています。学会は、老年医学会と協働で立場表明を出して欲しかったです。今後、学会も医師、多職種へアプローチしていただきたいと願います。身体拘束は看護職の課題ではありません。医療界全体の課題ですし、そもそも超高齢者への急性期治療そのものを考えなければいけないと考えています。